

訃報「古賀会長を悼む\*最期まで当協議会にご尽力頂きました\*」

総務理事 菊地 透（自治医科大学）

当連絡協議会の古賀佑彦会長は、かねてから病氣療養中のところ、2010年5月22日（土）午後12時5分にご逝去されました。享年75歳でした。名古屋市内のセレモニーホールで5月25日（火）に通夜、5月26日（水）に告別式がしめやかに行なわれ、多くの方々が葬列されました。謹んで古賀会長のご逝去をお知らせします。また、古賀会長のご逝去に伴い、平成22年度の新しい会長が選任されるまでは、定款の16条に従い総務理事が会長の職務を代行します。

古賀先生は、1935年1月24日に古賀良彦先生（東北大学医学部放射線科初代教授）の次男として仙台市で生まれ、当地で育ち、1959年3月に東北大学医学部を卒業後、国立仙台病院で1年のインターンを経て医師の資格を取得しました。その後、1960年4月に父の良彦先生に師事した高橋信次先生が教授を務めていた名古屋大学医学部放射線医学教室へ入局しました。放射線医学を研鑽し、助手、講師を経て、1973年6月に、新設された名古屋保健衛生大学（現在の藤田保健衛生大学）医学部放射線医学教室の初代教授に就任しました。

古賀先生は、X線CTのヘルカルスキャンの臨床応用研究などの放射線診療面での多くの研究業績を成し遂げると共に、放射線安全の分野においても国際放射線防護委員会の医療分野の第3専門委員会委員、放射線審議会専門委員、原子力安全委員会専門委員、原子力安全技術顧問や日本医学放射線学会会長などを歴任しました。2001年3月に藤田保健衛生大学を退職後は、同年4月より同大学名誉教授、原子力安全研究協会の参与として、緊急被ばく医療の普及活動を行なってきました。このような活躍の中でも特に、医療分野の放射線安全の向上と普及を目的に設立した当連絡協議会の発足と発展に尽力し、1990年12月の設立当初から会長職を精力的に行なってきました。

古賀先生は、2002年2月に脳底部の腫瘍が原因の出血で倒れて以来、病状を画像検査で克明に診断し続け、腫瘍が手術治療の困難な場所のため、放射線治療法のガンマナイフ治療と重粒子線治療を行ない、積極的に治療に向き合い、精一杯活動できる時間を大切に働いてきました。また、自らの治療内容を紹介し、放射線診療の功績を後進教育に向けてきました。そして、2009年11月24日の手術前日の夜まで、当連絡協議会の第20回記念の高橋信次記念講演用のスライドをPowerPointで作成していました。（この講演内容は、当機関誌「医療放射線防護」57号に掲載）

この場を借りて最後の放射線治療から1年近く経過した昨年11月の、下肢の状態が悪化した頃小生へ届いた古賀会長からのメール一部を紹介し、当連絡協議会のために最後の最後までご尽力し、放射線安全の仕事に注いでいらっしやうった想いと情熱を伝えます。

メールの背景：古賀会長の足の状況は、当協議会主催の第47回放射線管理講習会を東京会場で11月6日に開催した際は、階段の登り降りに少しゆっくりした状況でしたが平地での歩行は、気になるほどではありませんでしたが、足の状態は悪くなっていました。なお、この日は午後からの所用のため早退し、11月21日の第48回放射線管理講習会の大阪会場において、古賀会長と講演者の先生方との簡単な慰労会を計画していました。

◆ 2009年11月16日に、大阪会場に行けなくなった際の古賀会長メールです。

「先日お目につけた足の状態が段々悪化してきています。今では杖がないと立って歩くことに不安を覚えます。今週、専門医の診察を受けることにしたのですが、診察日が土曜なので、大阪の会と重なってしまいます。大変申し訳ないのですが大阪会場は欠席とさせていただきます。高橋信次記念講演は車いすになっても行くつもりにはしていますが。このところの急速な進展に若干困っております。」

◆ 2009年11月21日の受診後、緊急入院した病室から夜8時40分の古賀会長メールです。

「下肢の麻痺が急速に進んできて、今日、脳外科を受診したところ早速入院となってしまいました。とくに頸椎から胸椎にかけての腫瘍の増大が著しく、放置したら回復不能な完全麻痺になってしまうので、今のうちになんとか取りましょうということです。いろいろな準備で手術が12月初めになりそうで、困っています。11日には車いすを使っても行こうと思っていましたが、無理になる可能性が大きくなりました。大変に申し訳ないのですがどうしましょう。スライドだけでも送りましょうか。あるいはキャンセルにするか。主治医の意見では悪性腫瘍ではなく良性ではないかと言っていますが臨床的には再発・転移を起こしているのが悪性と言えるでしょう。そのわりには一般状態がよいので本質的には良性なのかもしれません。」

古賀会長には、第20周年の高橋信次記念講演は、予定通り古賀先生が行うことをお願いし、スライドの送付をお願いしました。なお、手術は11月24日に実施することになり、スライドは、先般の高橋信次記念講演で紹介しましたとおり、手術前日の11月23日の夜まで作成していたようです。術後から集中治療病室で意志不明の状態が続く中、12月3日に奥様の了解のもと鈴木先生（藤田保健衛生代大学教授）が、古賀会長のPCから捜し出しました。最期の最期まで当連絡協議会のことを心掛け、医療の放射線安全に情熱を燃やし続けていました。

当連絡協議会は、古賀会長の尽力のもとに、多くの方々の協力を頂いて築き上げて20周年を迎えました。今後も古賀会長の情熱を受け継ぎ、さらなる発展を願い役員・会員を代表して、新たな決意とともにご冥福をお祈りします。